



▲クルベジ®が栽培される農地を覆うように設置されるソーラーパネル(河原林町)

# 農業の新しい姿、始まる

## ～持続可能な食と農の未来～

農地を活用し  
新たな収益へ

将来にわたって、継続性のある農作物の生産体制を確立するためには、農地が持つ可能性を活かした手法や、環境への負荷を軽減した循環型農業を推進することが重要です。

亀岡市で行われている「炭素埋設農法」は、地域の放置竹林を竹炭(未利用バイオマス)にして地中に埋めて農地の土壌改良材として使い、結果として地球温暖化の原因となる二酸化炭素の排出を減らす環境保全の視点を持った農法です。この農地で作付けされた野菜は、新たな亀岡ブランド「クールベジタブル®」(「クルベジ®」)として販売されています。

この「炭素埋設農法」を行う河原林町、馬路町の約7,000平方メートルの農地を活用

し、(一社)日本クルベジ協会(大阪府茨木市)が大規模な太陽光発電事業を開始しました。農地を覆うように設置された太陽光パネルで、国内最大級の約540(約160世帯分)の能力を持つ設備を使って行っています。

この発電により、年間の二酸化炭素排出量は256トが削減される見込みとされています。また、パネルの下ではキャベツ、ホウレンソウなどの「クルベジ®」が栽培されています。

太陽光パネル発電による売電益の他、一部を農作物保管用の大型冷蔵庫の動力とし、適切な農作物の出荷、在庫管理に使い「クルベジ®」のブランド強化のために活用するなど、農作物とともに電気を収益の柱とする新たな農業生産モデルの構築につなげていきます。

河原林町で太陽光パネルを設置した農地の地権者である井上保治さんは、「自立した地域営農のために効果的な手段。環境に配慮した高付加価値の農作物と売電収入とのダブルインカムで、農業の安定化と拡大を目指したいと思います」と話されています。

### 新たな食と農の探求で 地域社会の活性化へ

8月18日、総合地球環境学研究所(京都市北区)と亀岡市は、地域の活性化と地球環境研究の充実を目的に、相互の協力と連携、交流を推進する交流協定を締結しました。



▲食と農を探究する交流協定を締結(8月18日)

同研究所は、「持続可能な地域社会」の基盤を支える食と農のあり方に関する研究、実証活動を行っています。今回の協定により、炭素埋設農法などに取り組む本市と連携し、日本の農村地域の活性化を図り、豊かな地域社会の実現に向けて取り組みます。亀岡市は今後も、関係機関と連携のもと、多様な農業のあり方を探求し、食や農の未来像を形づくるための取り組みを進めてまいります。

## 行財政改革を推進しています

「亀岡市行財政改革大綱2015・2019」では、行政運営の効率化や財政健全化に努めるとともに、「第4次亀岡市総合計画(夢ビジョン)」に掲げる都市像の実現を目指し、「持続可能な行財政運営の推進」を改革の目標とする取り組みを進めています。平成27年度実施計画では42項目の取り組みを行いました。主な取り組みとして、「健全

### ～平成27年度の取り組み報告～

で効率的な行財政運営の推進」では、公共施設の情報を一元的に把握、長期的視野を持って更新や統廃合等の検討を行い、時代に即したまちづくりを進める「公共施設等総合管理計画」の素案を作成しました。また、普通財産の処分による収入確保、各税・料金等の収納方法の拡大を行い、収納率の向上と効率化に努めています。

「市民参加による行政運営の推進」では、行政情報の重要な発信手段である市ホームページの更

新に向け、より市民にとって使いやすい情報媒体となるよう検討する取り組みを行いました。 「組織・マネジメント改革の推進」では、組織・機構を再編し、効率的な事務事業の執行を図るとともに、職員の資質向上と能力開発のための研修機会の充実を図り、より一層の市民サービス向上に努めています。 それらの結果、平成27年度は、42項目の取り組みのうち38項目(90・5%)が計画以上の進捗となりました。 今後も市民の皆さんに満足していただける市政運営のため、職員一丸となって行財政改革に取り組んでまいります。

## やさしい健康講座第108回



亀岡市立病院 内科医長 木村 史子  
専門分野：内科一般、消化器病学

### かぜと肺炎

市民の皆さんの健康に関して、今回は市立病院の内科医長が、専門分野についてアドバイスをします。 市民の皆さんの健康に関して、今回は市立病院の内科医長が、専門分野についてアドバイスをします。 市民の皆さんの健康に関して、今回は市立病院の内科医長が、専門分野についてアドバイスをします。

り、咳や熱が出るのは、この免疫が病原微生物と戦っている状態です。免疫の働きで多くは軽い気道の炎症、かぜで治りますが、気道の炎症がひどくなると呼吸器の防御機能を上回った場合や、病气やストレスで免疫力が落ちていたりする時は病原微生物がさらに奥へ入り込んで感染し、肺炎になってしまいます。

肺炎予防としては、①病原微生物の進入を防ぐ：手洗い、うがい、歯磨き、禁煙、②病原微生物を入りにくくする：咳下体操、③病原微生物に対する抵抗力をつける：体調管理、ワクチン接種、などがあります。 わが国2010年の報告では、介護施設入所者を対象とした試験で肺炎球菌ワクチンを接種した人では、肺炎球菌性肺炎の発症が63・8%減少し、その死亡率も接種した人0%、しなかった人35・1%、となっています。 ワクチン接種による発症予防と死亡率減少への有用性が期待され、現在65歳以上のすべての人を対象に接種勧告がされています。